

### ◆避難計画の問題点

#### 1. 内閣府が参加している広域防災計画

内閣府・福井県・滋賀県・京都府・関西広域連合等が参加している防災計画に関する会議「高浜地域分科会」は、昨年12月～8月6日まで、13回開かれている。テレビ会議等を交えて、3月頃には頻りに会議が行われていたが、8月6日以降開かれていない。

最大の理由：広域避難時の、スクリーニングの場所が決まらず。広域避難の矛盾。【15頁】  
福井から兵庫に避難する場合に、スクリーニングポイントは京都府内になる。その場合、京都府民の避難が遅くならないように、どこにスクリーニングポイントを設定するのか調整がっていない（これらが完成して、最終的に国の防災会議でお墨付き）。

#### 2. 安定ヨウ素剤の配布方法等は具体化せず【13頁】

##### (1) 福井・関西の状況

- ・5km圏内は事前配布
- ・30km圏内は、「緊急配布」で避難時に配布することになっているが、実効性なし。
  - ・基本的に各市町に1か所で保管しているだけ。配布方法は決まっていない。
  - ・保育所・幼稚園・学校に保管しているのは滋賀県のみ
    - ・高浜町：5km圏外の和田地区は事故時に「緊急配布」
    - ・おおい町：5km圏外は各地区で1か所に備蓄しているだけ。わざわざ原発に近づいてヨウ素剤配布場所に行く地区もある。
  - ・京都府7市町：基本的に各市町に1か所。2万人の宮津市でも1か所に保管
  - ・滋賀県2市：高島市と長浜市は、保育所・幼稚園・学校にも保管。

京都府内の安定ヨウ素剤備蓄場所9ヶ所（※は30km圏外にある施設）

7市町の備蓄場所	舞鶴市保健センター／宮津市保健センター／伊根町：本庄診療所 <sup>※</sup> ／福知山市民病院 <sup>※</sup> ／綾部市立病院 <sup>※</sup> ／京丹波町病院 <sup>※</sup> ／公立南丹病院 <sup>※</sup>
府所管の備蓄場所	舞鶴赤十字病院／京都市消防局 <sup>※</sup>

- ・アンケート結果（11月19日に回答がそろった。福井県4市町と京都府7市町）  
「避難計画を案ずる関西連絡会」実施。回答結果をよく検討し、申し入れ等に活用。  
回答の特徴など：
  - ・30km圏では、各市町1か所で備蓄。配布方法はまだ決まっていない。
  - ・幼稚園・学校等で保管しているのは滋賀県の2市町だけ。
  - ・高浜町と京丹波町は、学校等での保管を「検討中」と回答。
  - ・伊根町は「避難時に迅速に行動できるよう、事前配布を検討する必要があると思う」と回答。事前配布を検討すると回答したのは、伊根町だけ。

##### (2) 他の地域の状況

###### ①島根県の場合

- ・30km圏外で希望する住民には事前配布。
- ・30km圏内の幼稚園・学校等、病院・社会福祉施設でも保管

②高浜原発から 50 km 圏の篠山市では、1 月から希望する市民へ事前配布

③30 km 圏外の亀岡市・彦根市・西脇市・箕面市でも備蓄。

### 3. 安定ヨウ素剤の服用基準 50mSv は高すぎる 【14 頁】

- ・WHO の 18 歳以下の子ども・乳幼児・妊婦の服用基準は 10mSv（甲状腺等価線量）。
- ・日本が採用している IAEA は一律 50mSv。
- ・10mSv を採用すれば、兵庫県シミュレーションでは、180 km の和歌山等でも必要になる。
- ・規制委の指針では 30 km 圏外は「備蓄の必要なし」。
- ・これは、スクリーニング基準値が高すぎる問題とも関係している。

### 4. 避難の基準値を測定できないモニタリングポストの問題

- ・規制委は、SPEEDI 等の予測的手法は使わずにモニタリングポスト等の実測値で避難の時期や範囲を判断するとしている。
- ・モニタリングポストで常時監視していると宣伝している。
  - ・しかし、即時避難：500  $\mu$  Sv/h 一週間以内に一時移転：20  $\mu$  Sv/h を測定できないモニタリングポストが 30 キロ近傍にある。これでは役にたたず、避難は大幅に遅れることは必至。

[滋賀県の場合]

- ・県が設置している 6 局は低線量・高線量を測定できる 2 台をそれぞれに設置  
規制委が監視している 9 局は低線量しか測定できず  
低線量用のモニタリングポスト 0.01  $\mu$  Sv/h ~ 10  $\mu$  Sv/h  
高線量用のモニタリングポスト 1  $\mu$  Sv/h ~ 100mSv/h

### 5. 要援護者の避難計画はざさんなまま

- ・京都府は「センター」に任せており、病院・社会福祉施設、在宅の要援護者の避難先「マッチング」はできているというのみで、一切公表せず。できているのかもあやしい。
- ・移動手段についても、一般的に「確保したい」という願望のみ。
- ・在宅の病人・障がい者等にとっては、薬も入手できず、ヘルパーも来ることができず、「屋内退避」そのものが困難

### 6. 避難所のマッチング=防災の基本さえできていない。

30 km 圏内は「屋内退避」に押し込め、極力避難させない計画。屋内退避も困難

- ・舞鶴市民 65,000 人の避難先である京都市は、避難所の「候補」のみ羅列し、事故後に調整するというだけ。
- ・高島市・長浜市民 21,000 人の避難先である大阪府も、万博公園等の「拠点避難所」と市町を決めているだけで避難所は決めていない。
- ・琵琶湖が汚染されれば、「屋内退避」しても、安全な水の確保はできず。